

# 地域と学校が協働し、学校支援の充実と地域活動への参画が一層進んだ

## 巨瀬学園CSチーム

### 活動の目的

学校運営協議会で、学校・保護者・地域住民の代表が熟議を重ねることで、「社会に開かれた教育課程」が作成され、それを実施することにより、学校力の向上と地域創生につながる。学校を核として地域とともにある学校になり、巨瀬地域総出で巨瀬地域を盛り上げる社会を目指している。全ては、巨瀬の宝である子供たちのために、学校と地域が協働して子供たちの教育に当たるためである。そのためのコミュニティ・スクール（以下CSとする。）であり、よりよいCSの在り方を探っていく。

### 活動の内容及び経過

年4回の学校運営協議会及び研修会を通して、学校運営協議会委員と教職員が、川崎医療福祉大学諏訪教授の助言を受け、課題や成果を明らかにしながら、巨瀬地域にふさわしいCSの充実を図った。4回の内容は次のとおりである。

- 第1回目 年間行事予定、CS研修について
- 第2回目 予算要求、人事について
- 第3回目 令和3年度の教育課程について
- 第4回目 教育課程の承認

また、今年度は市内の学校に学校運営協議会の取り組みを広めたり、充実させたりするために講師を招いた研修会を2カ所で開催した。

### 活動の成果・効果

#### ○児童の地域への参画

地域活動への参画意識が高まり、「巨瀬をよくするためにできること」をテーマにCS委員と5・6年生とで座談会を行い、巨瀬をきれいにする「クリーン作戦」と地域の方と交流する「つどいの場」の2つのプロジェクトチームが立ち上がった。そして、11月から月1回下校時に運動場の草取りや通学路のゴミ拾いを始めた。また、月2回の「つどいの場」では、子供たちが内容を考え、学習や遊び・スポーツなどを市民センターで行っている。いずれもCS委員や地域の方と一緒に活動しており、児童主体の交流が図られている。

#### ○方向性の共有と活動の進化

川崎医療福祉大学教授諏訪教授を招いた学校運営協議会を年4回実施し、会議で熟議の様子を観察し助言をいただく中で、進むべき方向性を共有しながら学園と巨瀬地域が一体となった様々な新しい取り組みの提案がCS委員から成され、活動が進化している。



第1回学校運営協議会



CS委員とプロジェクトチームの話し合い



通学路ゴミ拾い(下校時)



「つどいの場」での交流

### 今後の課題と問題点

- 本CSの充実を目指してさらに研修を継続する必要がある。
- 設立から携わってきた校長をはじめ、教職員が異動する中で、本CSの活動の持続性の保持が課題である。
- 行政から市全体としての目指す子供像はある。その中でも、課題である児童の社会形成能力の向上に焦点を当て、CSと連携して取り組みたい。

- 代表者：西村肇 ●所在地：高梁市巨瀬町
- TEL：0866-25-0004
- E-MAIL：kosesho@sc.city.takahashi.okayama.jp
- 設立年：2017年 ●メンバー数：18名